



^ 13
3245
1



門へ 13
號 3245
卷 1

上なき下陳為



中野街忠野去月
連仁志ノ

昭和十年七月九日

本兼

七月七日

某は

は

の

の

の

の

の

の

の

殿より女房のせうをいひあはしといはけこのめ

某は法をねよけけくたてまらふらふら

はの雨のぬきも傘とて高をくくく

のめばし義を東の人りのとてようそ繪ふはし

のののののののののののののののののののの

のののののののののののののののののののの

のののののののののののののののののののの

のののののののののののののののののののの

のののののののののののののののののののの

のののののののののののののののののののの

花ノマミヤウ島スキヤ花桔梗
翁花蓮小車黄菊以上七種ニヨリ

花ノマミヤウ島スキヤ花桔梗

余熟思之。夫久松以一豎兒奸于王家。女妨其婚期。遂至情急勢迫。相俱枉死。子庫中。則是不義不孝之大者。宜以為戒。豈可更筆之冊子。以宜淫風哉。此余之所以握管踟躕。未應其請也。文刻堂笑曰。先生之言。固是矣。但書賈相謀。不在義而在利。森本

生以此事煩先生。亦是趁時。每已加之千里之請。不可峻拒。冀再思之。於是余乃感其言有理。翻案數日。至其事而不拘其迹。換骨奪胎。別自編綴。一個小說。以塞其羨。其間勸善戒惡。叙又情託風教。此是微意。所存實作者一片老婆心也。嗚乎。余雖以著作

自號^{スト}上比年撰述幾二百部。書賣請索
 相^ニ踵^リ不暇^ニ運^ス思^ハ以^テ故^ク往^ク不^レ免^ニ
 疎^ニ漏^ル誤^ル之^ヲ消^ス也。况^ヤ矣。書^ハ僅^ニ出^ツ字^ノ數^ニ
 日^ハ新^ニ業^ニ唯^ク恐^ク之^ヲ鄙^シ陋^シ其^レ不^レ足^ニ以^テ從^フ
 動^ス從^ニ善^ニ之^ヲ良^シ心^ヲ矣。閱^ス者^ハ幸^ニ恕^シ之^ヲ可^シ也。
 文化戊辰年孟統中浣著作堂主人
 喜子江戸飯台隱居



吾屋戸乃一村
 芥子乎念兒
 亦不令見殆
 散都類香聞

秋七種
 第一芳萱
 河内二部正元

芥子香

日



山家稅平

秋野之草花
我未手押靡而
來之久毛知久
相流君可聞

秋七種

芒花

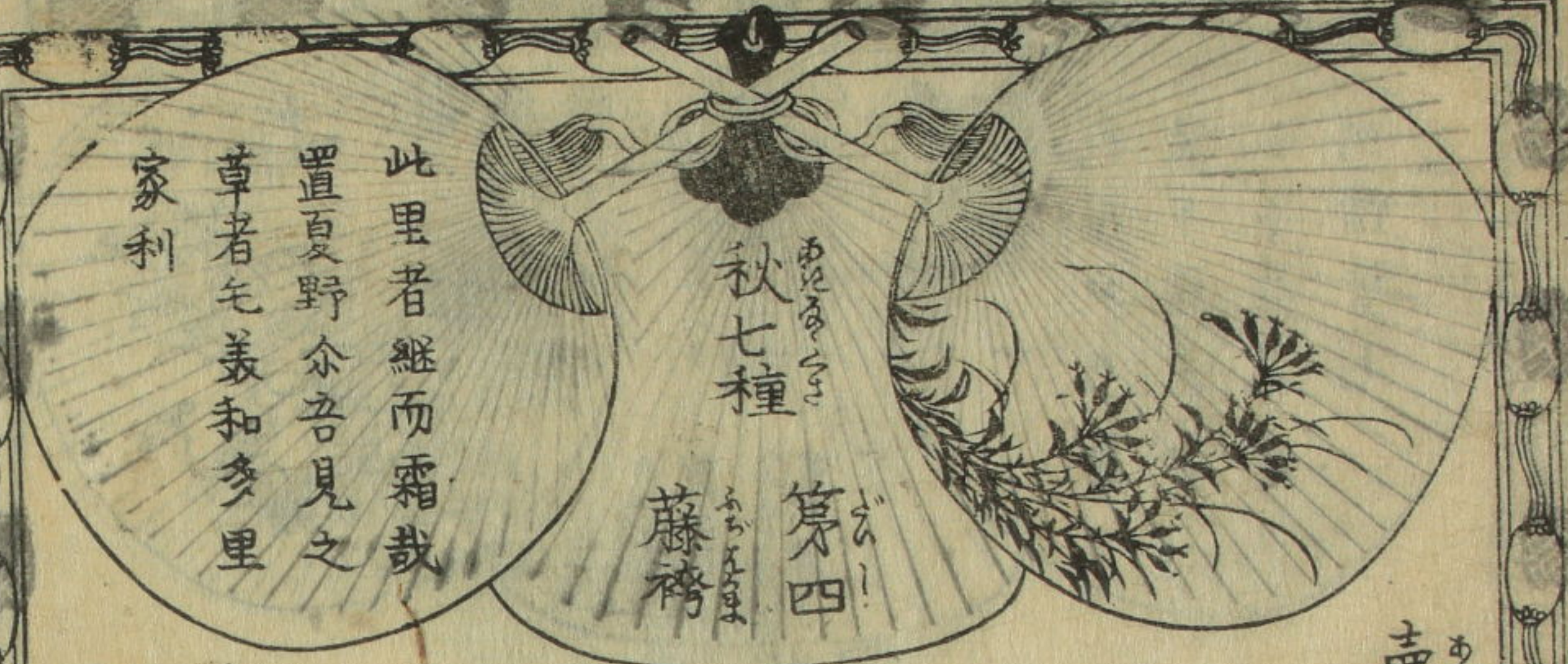


丹五兵衛妻
阿也女

我屋戸乃葛
葉日殊色付
奴不座君者
何情曾毛

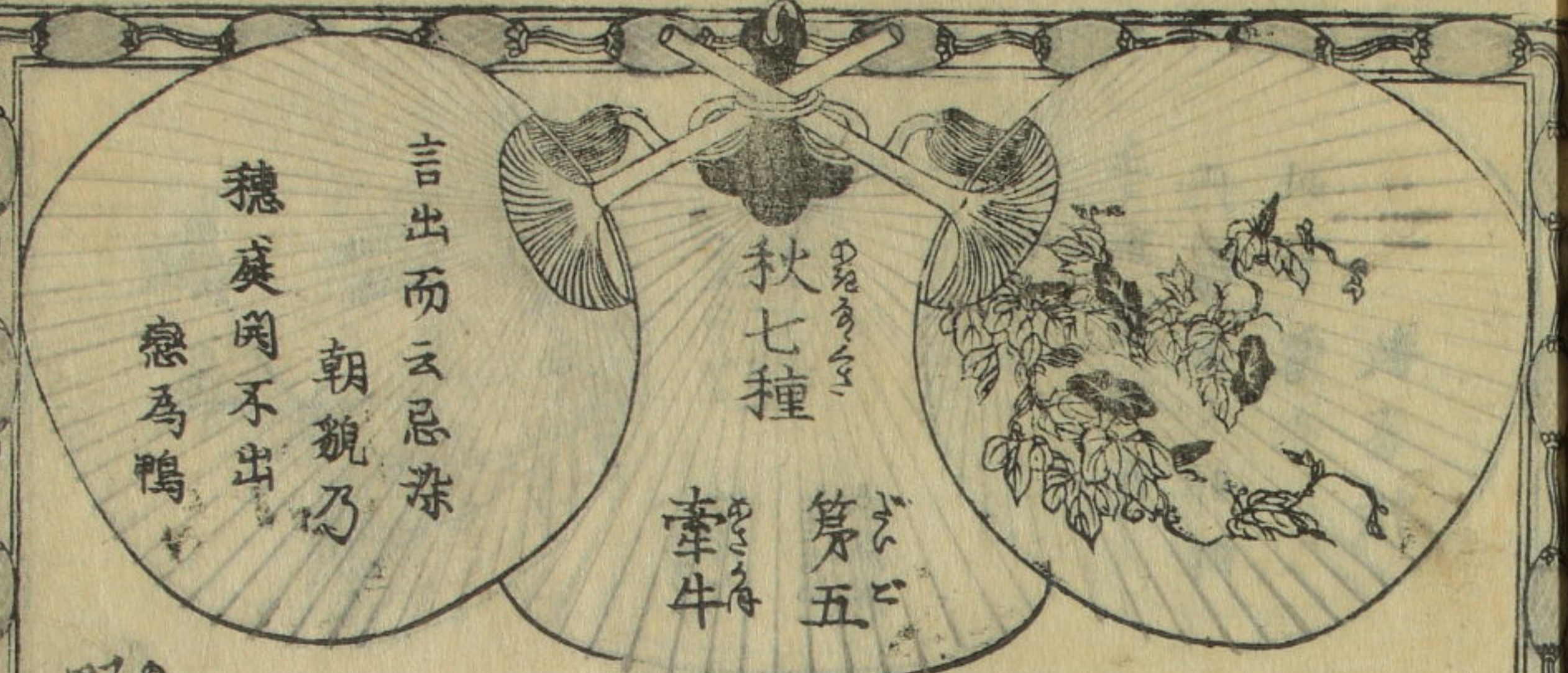
秋七種

葛花



此里者繼而霜哉
置夏野介吾見之
草者毛義和多里
家利

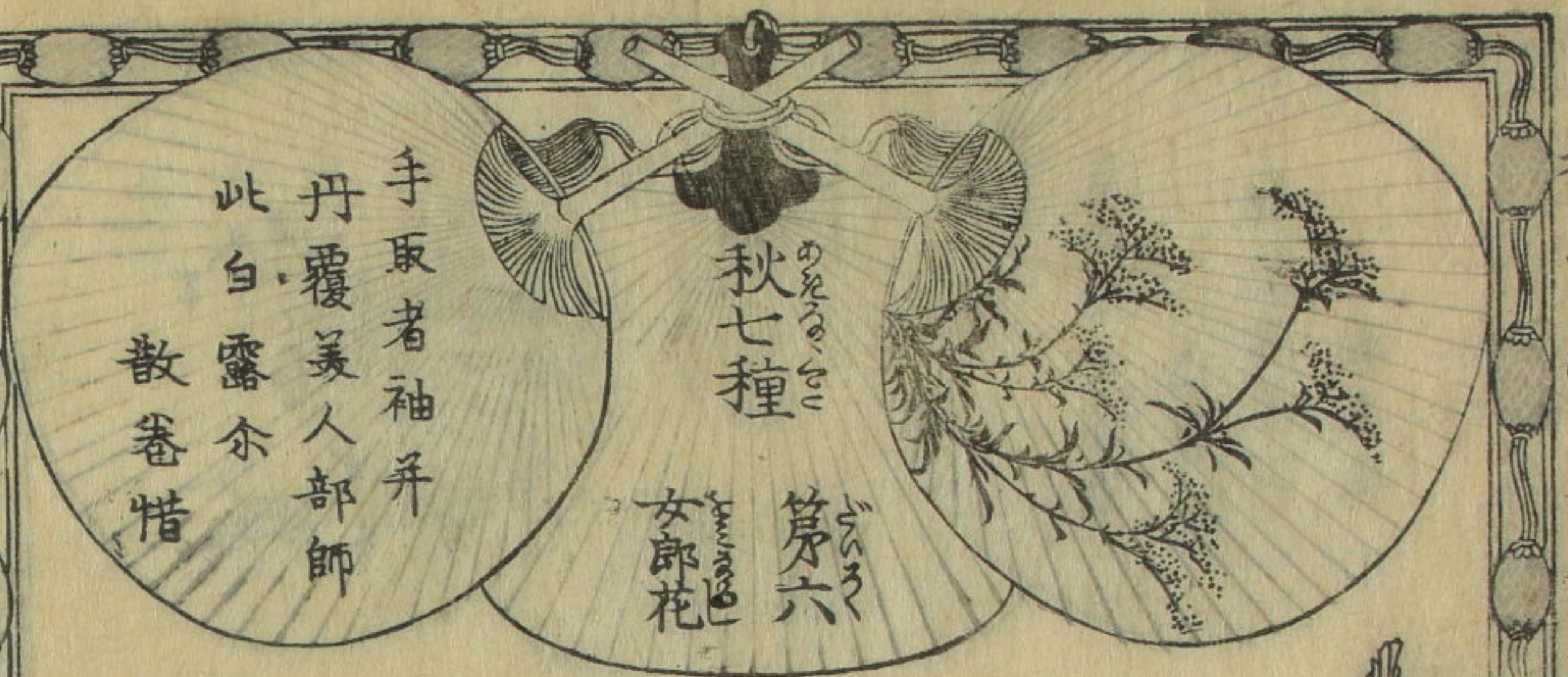
賣油
丹五兵衛



言出而云忌殊
穗庭閑不出
朝觀乃
意為鴨

野崎久作

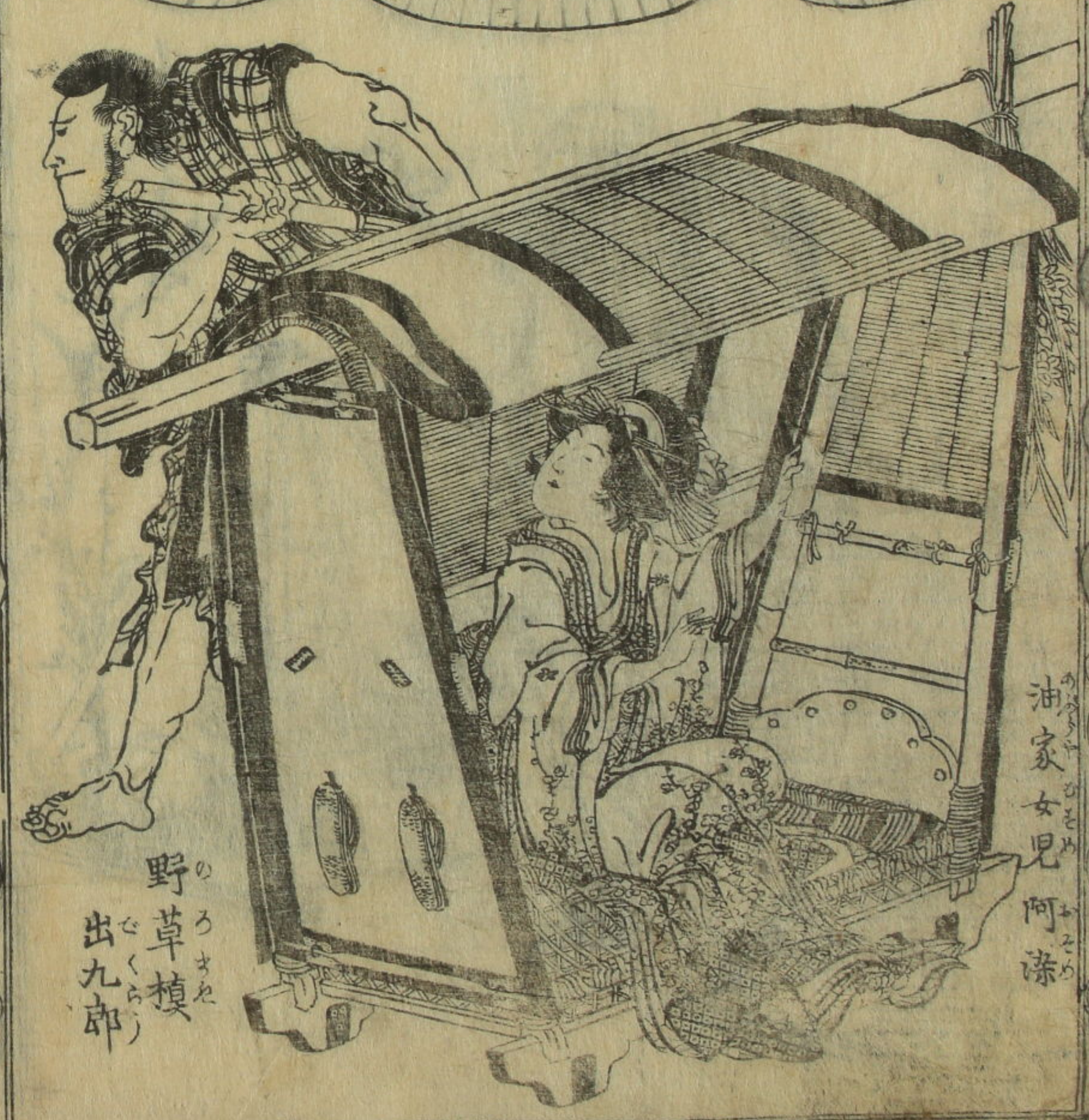




手取者袖并
丹覆美人部師
此白露尔
散卷惜

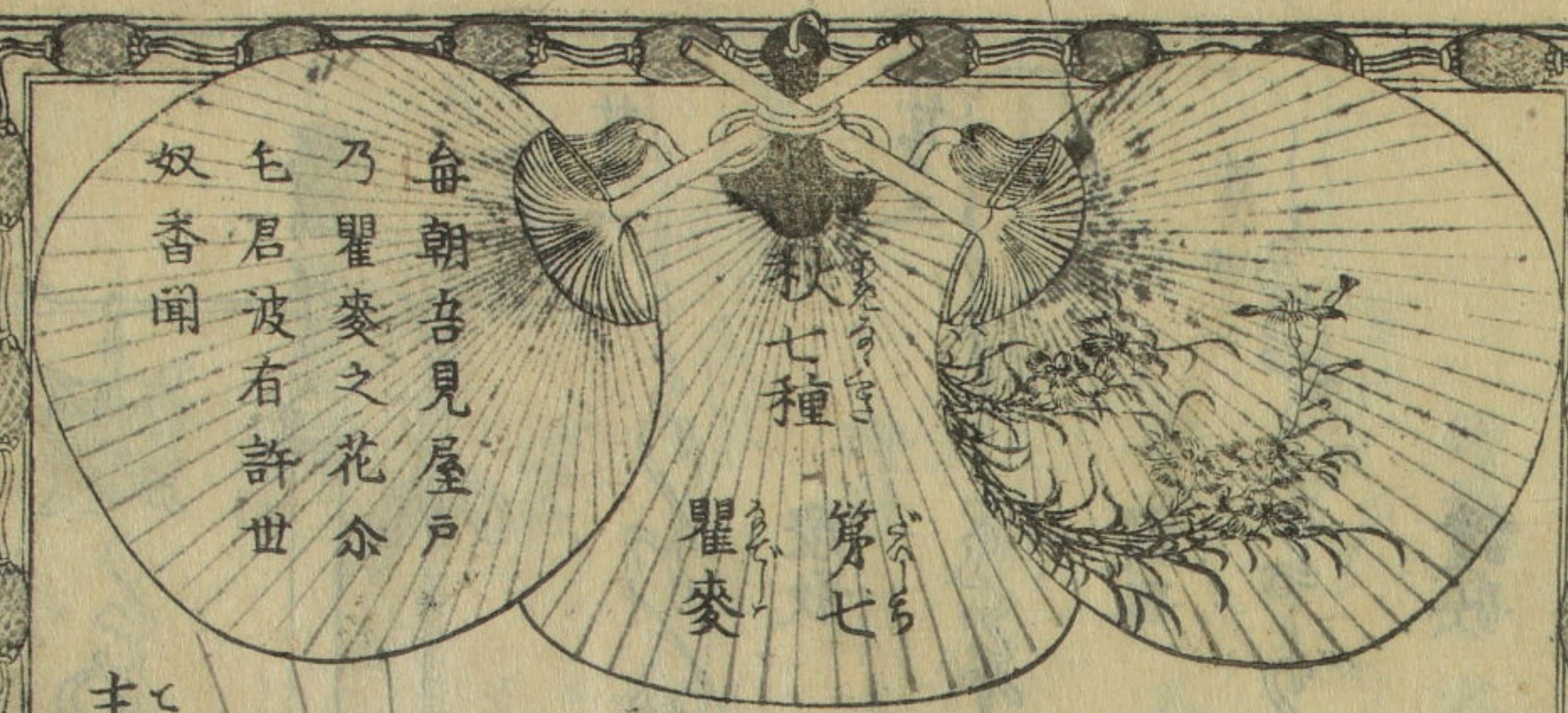
秋七種

第六
女郎花



野草模
出九郎

油家女見阿漆



命朝吾見屋戸
乃瞿麥之花尔
毛君波有許世
奴香闻

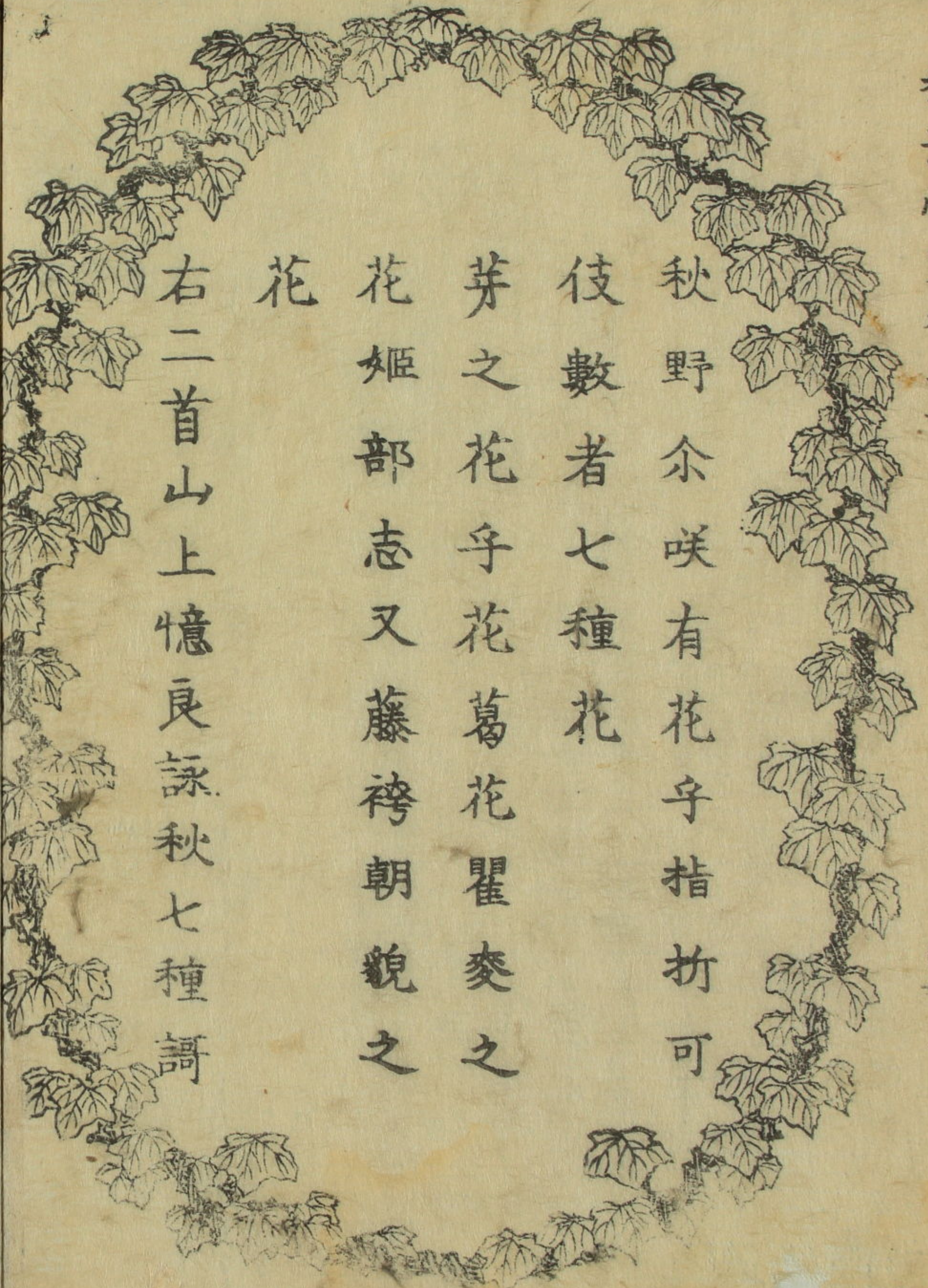
秋七種

第七
瞿麥



主音是非八

小野久松



秋野尔咲有花乎指折可
伎數者七種花
芽之花乎花葛花瞿麥之
花姬部志又藤袴朝貌之
花

右二首山上憶良詠秋七種詩

松濤情史秋七草卷之一

東都

曲亭馬琴編次

第一芳宜ふ名れ 鹿鳴草

都みゆ咲負人も鹿の鳴く。名よあふ草ハ秋の山里と詠トらん。浮世の秋
の真愛ふるん。いとものめらえ十善の君ぞ。吉野の山居しゆひる頃南朝
股肱の武臣なりける。楠左馬頭正儀も。正行か方あり。正成か二郎也。
或も三男也。抑河内判官橘正成ハ。楠正澄か嫡男なり。その先
出づり。誠忠武畧古今は拔萃し。世は許えざる良將ありと。命運終ふ
時をぬむ。ゆく末のころも。あつて。延元のとめの子。五月をある。人の
日。正季等と。その。冠を防ぎ戦ひつ。横州漢河の上あり。或も。討つ
う。この。の。同胞。知を去る。と。腹を切。と。死。と。は。後醍醐の帝。と。

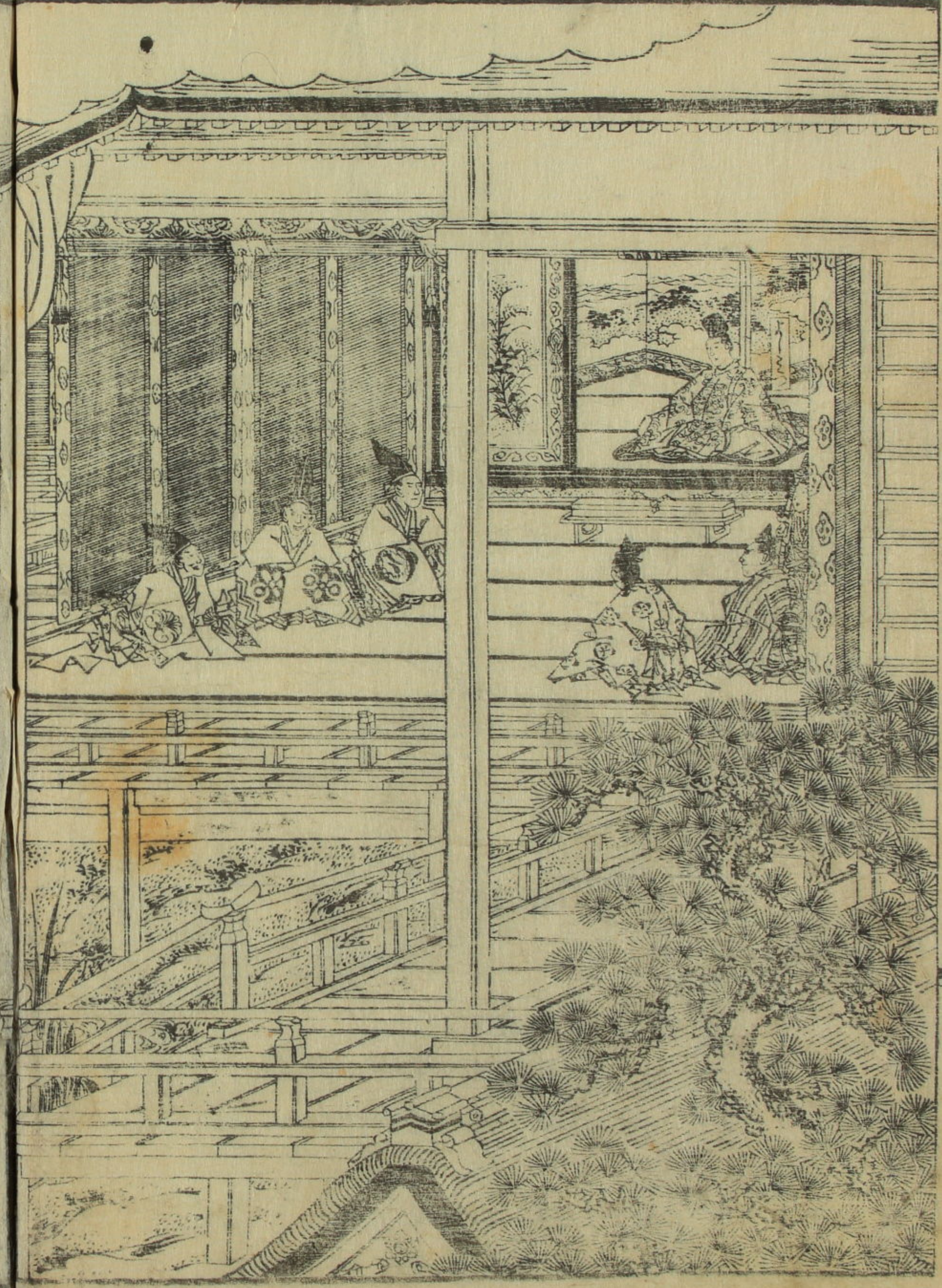
て。是を後龜山院とす。しる。さる。捕正儀ハ。その年。本種。この。謀畧
 を。や。り。終。ん。と。す。る。小。動。ゆ。ら。ん。が。殿。上。人。生。上。建。部。の。長。倉。残。は。阻。へ
 ら。ま。く。遺。恨。あ。ら。う。と。す。れ。は。今。茲。主。上。ハ。み。や。う。世。の。花。の。梢。の。雲。か。く。ま
 し。く。忽。地。崩。れ。ひ。く。世。を。ま。や。う。と。浅。中。し。く。と。南。方。衛。護。の。志。を。喪。じ
 老。黨。の。辣。由。聽。じ。子。ぶ。も。ら。あ。ゆ。あ。ゆ。せ。げ。く。と。志。の。び。く。は。管。領。頼。之。は。消
 息。し。く。足。利。家。へ。降。系。を。ま。さ。す。誓。書。を。り。き。ま。し。入。ま。し。う。バ。時。の。將
 軍。足。利。義。滿。速。に。許。容。め。り。く。右。馬。頭。頼。之。赤。松。判。官。ホ。を。捕。が
 赤。坂。の。城。へ。遣。さ。る。わ。く。同。年。四。月。下。旬。は。正。儀。入。洛。し。頼。之。が。宿。所
 小。到。り。款。を。速。勸。盃。了。く。彼。人。は。誘。引。し。義。滿。將。軍。は。見。系。し。く
 龍。尾。と。い。ふ。太。刀。を。進。し。せ。り。う。が。義。滿。由。殊。に。頼。之。を。睦。と。笑。え。く。件。の
 太。刀。を。秘。蔵。せ。り。と。そ。の。條。に。物。結。の。發。端。あり。例。の。寓。言。の。こ。う

あ。い。ね。ど。正。儀。の。王。虚。實。あ。は。つ。る。ふ。う。ま。ど。の。細。と。要。記。攝。雲。死。足
 利。治。乱。記。ホ。も。正。儀。が。足。利。家。へ。降。系。の。り。を。載。り。鳴。呼。い。う。る。ま。は
 へ。南。朝。棟。梁。の。武。臣。と。し。く。又。と。兄。と。の。遺。訓。を。忘。じ。北。年。來。の。忠
 義。を。化。み。く。仇。人。の。前。に。腰。を。折。め。親。族。ら。も。が。為。に。齒。を。切。る。と。も
 影。護。と。せ。じ。世。の。人。ら。の。友。あ。あ。い。と。い。笑。へ。を。も。耻。辱。と。せ。じ。聽。く。赤。坂。の
 城。に。ま。歸。り。終。り。南。朝。の。勅。命。に。應。せ。ざ。る。と。そ。浅。猿。々。と。み。の。と。死
 正。儀。子。子。ら。の。二。人。あり。く。嫡。男。ハ。左。衛。門。尉。正。勝。と。呼。ば。二。郎。ハ。河。内
 守。正。元。と。い。り。この。同。胞。又。ハ。足。利。家。へ。降。系。し。る。う。を。を。受。て。い。ま
 恨。と。憤。り。兄。弟。り。ろ。と。も。ふ。又。は。引。り。と。し。く。千。劍。破。の。城。に。指。籠。り
 いろ。南。朝。へ。忠。を。竭。せ。程。に。足。子。忽。地。は。不。和。と。る。り。ぬ。亦。捕。が。一
 族。と。和。田。和。泉。双。正。武。と。い。ぬ。正。平。四。年。の。春。正。儀。と。り。ふ。四



家訓
 正徳
 降る

松平傳史卷之一



糸繩半ありて討死しつる。右兼尉尉高家の才あり。和田和泉守
 遠か二男あり。件の正武ハ武畧の達者あり。双なる忠臣るは
 正儀が挙動いと朽そと怒り罵り。正勝正えが父とつる志と殺
 る。是利家へ後ざるはらうる忠節ふらそ。さるが正成ぬの孫と
 然と稱嘖。律の趣を吉野殿にゆえのげと。南帝の勅命を稟
 正勝木とつる小殿の軍兵をねと。赤坂の城へ推寄せ。息を中吻せと。攻
 る程正儀堪難と。京都へ援兵を乞ふ。山魚柴竹山木数千の兵
 をりて赤坂の城に後結し合戦あぶくあり。正武正勝が鋒
 鋭し。正儀既を中つる。和田の龍泉の城あり。正勝正えハ千餘破
 の城あり。正儀と其の間は狭し。赤坂の城あり。常は左右に敵を
 受く。志づつたるもる。只赤坂の戦は光陰を過し。十三年をを

とうる。時ハ北朝の永徳元年夏の首より。正儀長を病むより。卧
 秋は迄てもあつた。病の床より。未の末の末を思ひ。中
 親同胞ハ南朝の忠臣あり。邦家の為命を損し。名をハ朽ぬ。捕
 の家を統ぶる。不肖あり。律を及ぶ。志あり。弱官の昔
 あり。兄は體をめぐり。耕し。陣を植く。士を糧ひ。兵を
 煉り。是利の文敵と戦ふ。毎に絶つ。一たびも。不覚の敗を取。百
 戦百勝の針畧を献る。用ひ。まざる。これのま。聖運の傾く。而
 ち。及ぶ。臣の道の場。今ハこれ。い。や。是利將軍へ伏
 後。子孫に富貴を傳へ。君は三世。二代共。天を戴。る。
 雙言款。媚く。阿容。こと。是利家へ降。集。生。涯。の。恨。を。さ。る。
 う。子。由。の。親。あ。ま。う。う。美。勇。を。孤。忠。を。竭。を。賢。さ。よ。う。承。り

夜もうち振入。種(たね)のゲ(げ)は襟(えり)の端(はし)。堅(かた)まるるのあり。然(しか)く錠(じやう)しく
 んふ。失(うしな)る金(かね)る。そのふと。ふり。父(ちち)も母(はは)も呆(おろ)と惑(まど)ひ。奴婢(ぬひ)ホの面(おもて)
 のり。痛(いた)ま。限(かぎ)る。當(あた)下(した)兵(へい)洩(はら)ハ(ハ)のを。ゆい。子(こ)の
 髻(こむぎ)を引(ひ)廻(まわ)す。膝(ひざ)の母(はは)より。捻(ねじ)挫(く)ぶ。瞳(ひとみ)とる。眼(まなこ)中(なかに)涙(なみだ)を。高(たか)声(こゑ)
 を。う。泣(な)けり。金(かね)を。盗(ぬす)む。明(あ)白(はく)は。首(くび)状(じやう)せ。そ。い。ま。や。
 と。い。た。ま。さ。く。扇(あふぎ)の骨(ほね)由(よし)推(お)よ。背(せ)三(さん)四(し)打(うち)懲(こ)ら。父(ちち)の怒(こ)り。理(ことわり)ま。ば。
 母(はは)親(おや)由(よし)禁(こ)り。奴(ぬ)婢(ひ)ホ。由(よし)賭(か)け。手(て)握(にぎ)り。け。う。も。出(で)さ。さ。り。
 ぬ。金(かね)由(よし)又(また)打(うち)懲(こ)ら。由(よし)由(よし)保(たも)松(まつ)と。二(ふた)声(こゑ)と。泣(な)けり。叫(こゑ)ぶ。ま。ま。よ。ま。ま。
 ハ。い。た。ま。れ。る。金(かね)慾(ほ)し。明(あ)白(はく)は。う。ま。も。賜(たま)う。と。ち。ひ。
 ぐ。豆(まめ)の裏(うら)又(また)飯(い)粘(ね)を。塗(ぬ)り。引(ひ)ち。し。る。金(かね)を。踏(ふ)著(つ)く。只(ただ)二(ふた)枚(まい)を。盗(ぬす)む。
 ゆ。い。ま。と。勸(すす)解(げ)ふ。ん。ば。又(また)ま。ま。と。く。呆(おろ)果(は)る。子(こ)を。撲(う)ち。地(ぢ)と。突(つ)退(たい)

豊(とよ)浦(うら)を。見(み)る。つ。太(お)母(はは)の。息(いき)を。吻(く)さ。日(ひ)本(にっぽん)松(まつ)が。言(こと)の。の。り。た
 を。え。く。久(ひさ)後(ご)ふ。り。と。ま。く。心(こゝろ)ひ。る。彼(かれ)が。邪(よこしま)智(ち)の。長(なが)る。と。か。く。ま。ま。く
 ろ。ん。と。い。ま。さ。く。呂(ろ)使(し)の。の。も。か。お。り。ん。程(ほど)由(よし)と。面(おもて)を。楓(かえで)の。毒(どく)を
 菌(きん)ふ。の。り。三(さん)年(ねん)茄(か)子(こ)の。花(はな)又(また)毒(どく)あり。世(よ)は。あ。り。子(こ)を。り。て。親(おや)の。業(わざ)
 因(い)る。ふ。れ。ど。悪(あく)鳥(とり)の。卵(たまご)の。う。ら。う。と。も。娘(むすめ)べ。く。ど。悪(あく)木(き)の。嫩(なや)た。う。も
 植(う)え。彼(かれ)の。年(とし)由(よし)月(つき)も。日(ひ)も。庚(か)申(しん)は。あ。り。五(ご)月(げつ)五(ご)日(にち)は。生(な)ま。と。う。い。つ。え
 う。五(ご)月(げつ)五(ご)日(にち)は。生(な)ま。子(こ)の。父(ちち)母(はは)を。食(た)べ。と。り。又(また)庚(か)申(しん)の。夜(よ)は。有(あ)り。れ
 ば。子(こ)の。盗(ぬす)賊(ぞく)と。ま。い。俗(ぞく)説(せつ)の。ま。と。端(はし)午(ご)の。節(せつ)は。生(な)ま。と。う。子(こ)の。母(はは)人(ひと)
 ろ。り。例(れい)ま。い。それ。も。う。ま。ま。と。め。ま。と。め。か。れ。癩(かた)者(もの)を。娘(むすめ)ハ。い。ま。ま。
 大(お)ろ。ろ。禍(わざ)を。惹(ひ)き。お。り。親(おや)又(また)親(おや)せ。れ。り。あ。り。ん。覚(さ)え。た。ま。と。い。ひ。も。果(は)て
 ぶ。閃(ひび)と。抜(ぬ)く。う。揚(あ)げ。る。忍(しの)の。下(した)母(はは)親(おや)と。吐(つ)嗟(なげ)。と。ま。り。推(お)隔(か)二(ふた)の。袖(そで)

八六青

二五

雑居兵衛

怒

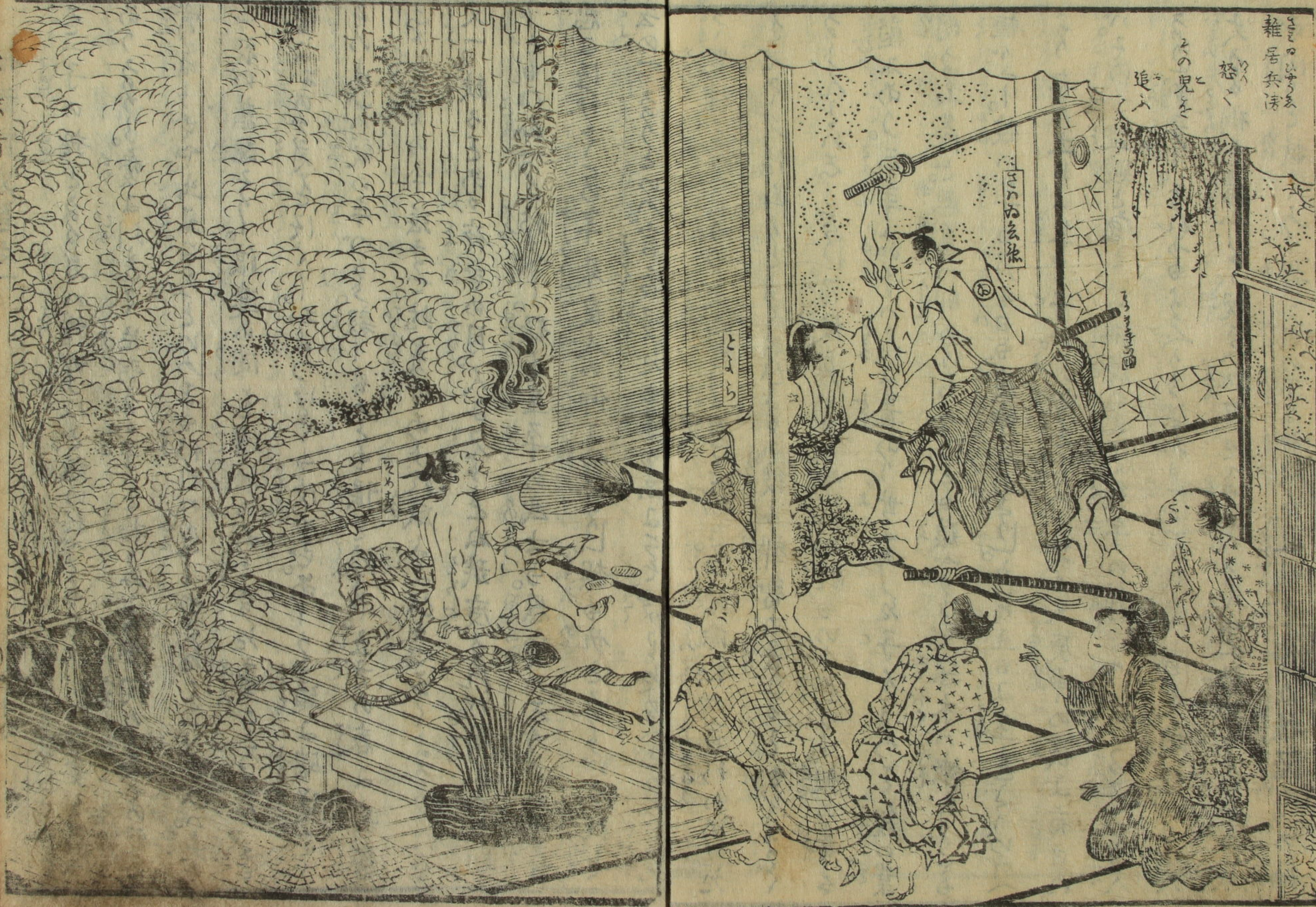
その見を

追入

三つおん張

とよ

とよ



親の私より。免ぐらに罪を逼る。追放の公の道あり。汝が盗る金と
 僅よ二枚もれど。殿の軍要金るんば。その罪私め免し。ぐら。ぐら。汝
 一旦念をうけん。ば。私の金をり。一倍。離別の畏。さ。さ。れ。く。
 又。その綿の囊。納。よ。る。へ。家の系圖。あり。が。年。由。ら。竹。の。う。を。ら。よ。
 あ。ま。れ。ど。杖。う。頼。む。子。を。捐。く。の。あ。り。て。う。ひ。る。た。誰。み。ら。の。系。圖。を。付。へ。
 孰。う。ら。の。家。を。徃。せん。雜。居。の。家。名。の。徃。ん。と。歎。く。あ。も。る。毎。あ。ま。り。の。あ。り。
 う。う。て。この。一。油。を。目。今。汝。は。授。る。が。家。を。り。も。人。う。う。ひ。は。親。の。を。
 みる。と。あ。る。が。志。を。更。め。く。情。あ。る。人。は。便。く。身。を。立。家。を。與。せ。し。とい。ひ。
 諭。し。く。件。の。金。と。巻。油。を。ら。が。子。の。母。う。ら。あ。さ。う。忌。ま。ば。父。あ。り。後。で。母。親。
 の。拭。み。涙。と。押。と。痞。ふ。手。の。舞。あ。ら。ぬ。愁。傷。を。條。松。と。人。う。う。ら。う。ら。う。が。ら。
 羞。し。る。氣。を。も。あ。り。て。金。と。巻。油。を。懷。は。換。め。つ。と。立。あ。り。て。外。面。へ。出。

んと。さ。る。を。母。豊。浦。へ。忙。し。く。引。留。め。や。や。や。と。條。松。自。の。恨。を。さ。る。う。ら。
 へ。ら。ど。く。冬。ま。へ。勸。解。さ。う。ら。る。悪。は。剛。と。る。言。ふ。由。剛。と。世。の。常。言。ふ。
 い。み。り。の。を。張。あ。る。を。を。あ。ら。う。も。言。道。は。用。ひ。る。が。あ。れ。歎。を。知。め。の。
 さ。せ。ど。人。う。う。何。処。を。宿。と。う。何。人。が。艱。を。受。ん。と。思。ふ。を。づ。ら。れ。も。と。
 ふ。ら。れ。あ。れ。不。為。う。の。才。剛。も。疼。し。癢。し。ゆ。ま。ご。と。あ。ら。ぬ。恨。子。あ。り。あ。り。ら。る。
 へ。勸。解。せ。し。と。川。居。は。兵。隊。と。ら。と。ん。と。ん。と。冷。笑。ひ。彼。世。俗。の。常。言。
 へ。悪。は。剛。と。り。の。又。言。は。剛。と。り。と。い。と。さ。ら。う。え。が。た。結。ふ。ら。を。夫。台。人。と。
 悪。を。う。ら。さ。ど。悪。人。の。う。で。善。を。植。ん。と。れ。が。且。は。悪。の。を。計。較。て。夕。は。言。ふ。
 を。獲。と。り。の。あ。ら。が。言。は。言。は。う。ら。と。悪。ゆ。又。悪。る。と。ど。く。理。は。さ。ら。け。し。
 結。を。い。跡。と。子。を。教。る。の。教。さ。る。あ。ま。ら。う。の。あ。ら。が。妻。あ。の。何。け。る。う。ら。ん。
 寺。光。舜。の。子。由。聖。人。よ。あ。ら。ど。盜。路。が。又。宣。賊。う。ら。ん。や。の。性。の。あ。ら。け。

一寸の虫とて五分の魂あり。彼が目今の奉動をえんく。いよ思
の羈の絶つる。りせんも忍ぶべく。孰とる忍びざる。りのよも
を追出せ。といれすれあどく。いそがとみぞ豊浦のさむらふらうく。
よとはつ。伏沈めが。漆松と母の顔を。ほくく。とて。呪を母のいさなは
あひそ。叱らる。かろる。さうい。さ。出さる。へ。坐せ。金浪珠玉のいさなを
ふた衣とをを盗とらう。おん男一人を漆松が。いと安らふ。難ふべし。と
不らう。ふいの子らう。い。母を浅様く。又由果止。く口を。神。奴婢
ども。舌を巻く。頻に驚と怕ま。う。漆松うち腹とらう。噫。汝ホ
ハ。物食ふ木偶とらう。この家を出えらう。す。これ。又主らう。どや
い。ま。ど。と。ゆ。ら。り。利。く。く。が。弄。物。る。ん。ど。の。残。り。く。被。は。包。と。入。ま。
夕餐の割籠准依。く。跡より追著。今宵の宿や。て。送。ま。う。し。

夏の入り日の堪が。たりの。管。い。ま。を。と。り。り。く。其。よ。板。金。剛。の。端。緒。を
ん。と。と。彼。を。罵。う。の。袖。うち。拂。く。出。由。さ。ね。空。る。う。を。樹。を。枯。く。虫
ハ。樹。より。生。ト。才。を。亡。に。剣。の。ら。う。り。剣。人。夫。孝。を。親。を。慕。ふ。は。成。り。
忠。ハ。恩。を。知。る。ふ。成。る。世。の。童子。ホ。善。を。え。ん。の。と。ま。よ。及。ん。ら。う。を。愿。ひ。
悪。を。え。ん。の。と。ま。よ。似。ぞ。ん。と。を。思。ひ。才。学。を。後。し。く。親。切。は。習。ひ。勢。
め。忠。孝。の。道。よ。り。入。り。信。義。の。林。ふ。持。た。べ。し。五。刑。の。罪。犯。不。孝。う。
大。る。る。の。あ。一。世。の。暴。悪。盗。賊。う。甚。し。を。の。う。只。懼。る。も。思。く。ら。の。
入。慾。の。私。ら。り。め。く。と。雑。居。漆。松。も。膽。太。く。も。親。の。家。を。追。せ。ん。と。憂。と
せ。む。龍。泉。の。城。より。遙。は。東。の。め。ら。る。奉。え。ぬ。山。の。兼。は。到。り。く。
あ。り。ら。る。山。神。の。廟。を。森。坐。と。昼。ハ。終。日。路。か。く。人。の。袖。は。携。て。残。を
ま。の。ら。ら。ハ。里。ふ。出。く。求。食。る。程。よ。人。を。を。彼。が。推。ま。り。欺。ん。を。憐。



木下村見卷之二

李花奴山又
赤松
落草



把後玉座并分半奉一節仍二人
建德二年三月十日

石の安



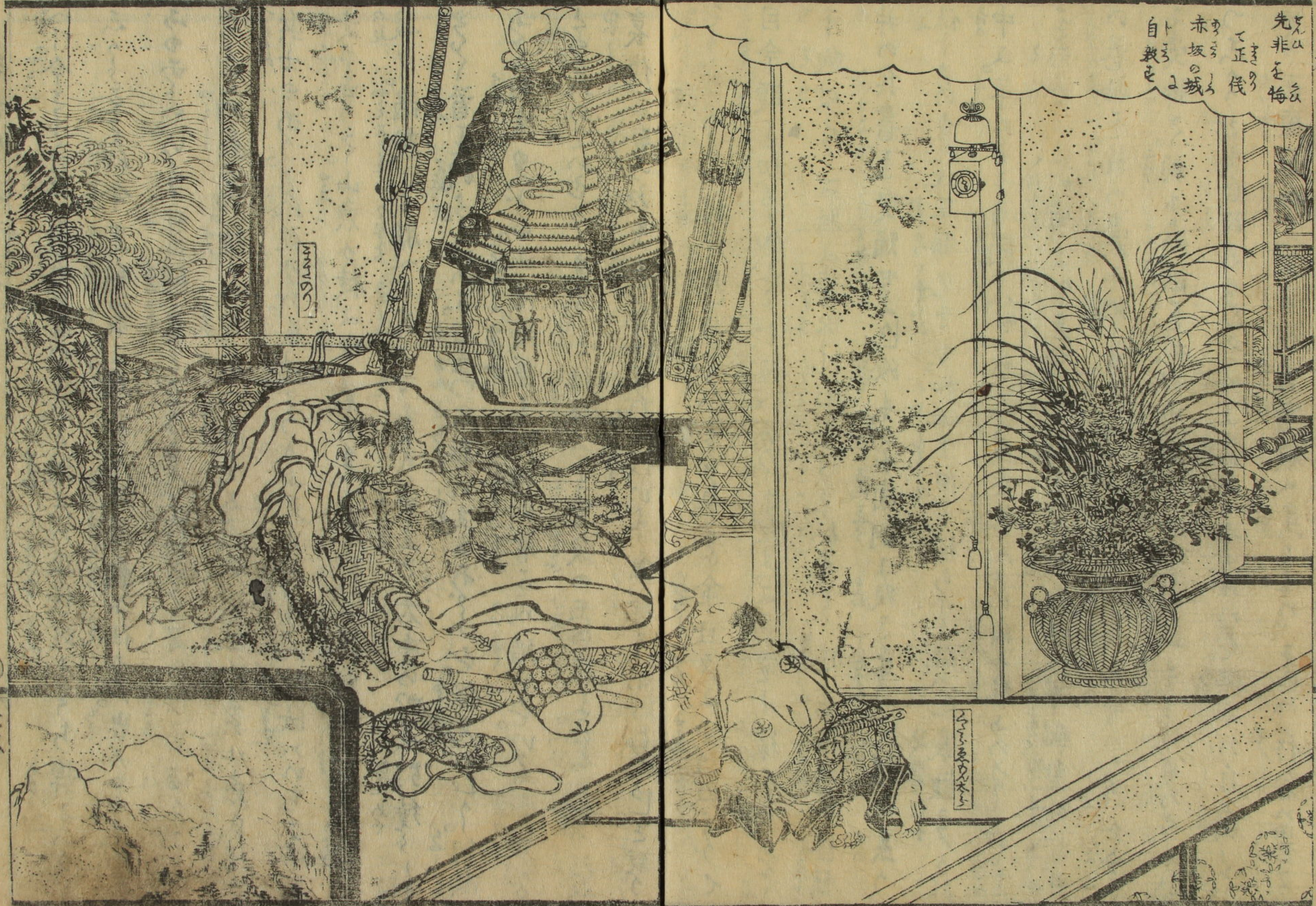
程又。雜居兵誘はつと面目ふぶえつ。頃一由八月朔日田実の慶賀ごつに
 果て。退さうが。既を預る奴隷が。出る店のかうまうまうと。かう
 今いと怪しがる男。その書函めれたる月のを懐し。僕が妹を乾きうた
 母よりみ来る。を進ドゆ。いひつけ。う。出を。何んか。お
 とや。件の男の。消すうは失う。え。齋せ。すじつ。縁が。おれぬ兵
 誘はつ。眉根を。せ。いく重。も。上。累。一。法。幣。を。切。と。て。さう
 中。み。蓋。を。開。内。一。封。の。手。書。あり。て。雜居兵誘。ど。正。儀。と。字。
 せん。ば。の。い。つ。み。と。公。鷲。を。忙。し。く。蓋。を。舊。の。ご。う。う。便。室。に。さ。り。入。り
 障子。を。さ。ら。へ。封。皮。を。お。剪。ぶ。の。び。す。ふ。ま。ま。を。読。み。お。ん。才。浅。く。慮
 及。ぶ。ど。う。君。を。ら。と。な。り。又。の。遺。命。を。悖。り。と。三。利。家。へ。降。参。
 する。赤坂の恨を。省。せ。む。と。面。す。天。の。責。脱。と。が。う。て。長。き。病。を。さ。す。

うち臥。一日。みく。身。の。衰。を。お。悔。ゆ。病。を。死。う。ん。の。本。意。を。う。ぬ
 ば。今。一。と。び。は。又。對。面。し。後。の。う。ま。も。頼。ま。せ。え。家。傳。の。兵。書。指
 井。の。巻。軸。を。正。勝。に。え。ホ。に。贈。遺。し。く。自。叙。を。や。と。め。へ。る。う。位。員
 死。し。く。吳。王。滅。び。世。范。蠡。去。く。関。越。荒。む。悔。ら。く。の。汝。が。練。を。用。ひ。む。
 深く。お。さ。羞。る。と。あり。り。舊。恩。空。う。ご。ど。て。生前。に。見。臨。し。を。は。ば
 幸。甚。し。く。ん。と。ご。書。う。り。る。兵。誘。を。れ。を。読。み。し。つ。坐。し。落。涙
 一。さ。う。く。の。左。典。既。正。儀。十。三。年。の。非。を。悔。く。今。般。の。一。言。を。送。ん
 と。く。招。れ。ゆ。へ。い。の。う。ご。う。の。あ。ら。ん。ふ。ん。ど。も。あ。る。が。館。へ。入。り。下。さ。し
 へ。明。白。お。せ。え。ま。り。て。新。し。の。う。た。だ。ん。ば。ぞ。借。る。あ。え。の。殺。獲。
 ぞ。ん。く。せ。ん。と。お。し。ら。ふ。み。お。ひ。う。ぬ。く。胸。苦。し。く。日。を。過。し。ぬ。ら。の。時
 赤坂の城。の。城。の。南。左。馬。頭。正。儀。病。苦。日。あ。す。と。ら。ち。死。ぬ。べ。く。覚。り。が。

赤坂の城

二二

先非を悔
て正を
赤坂の城
自教を



赤坂の城

九

九五

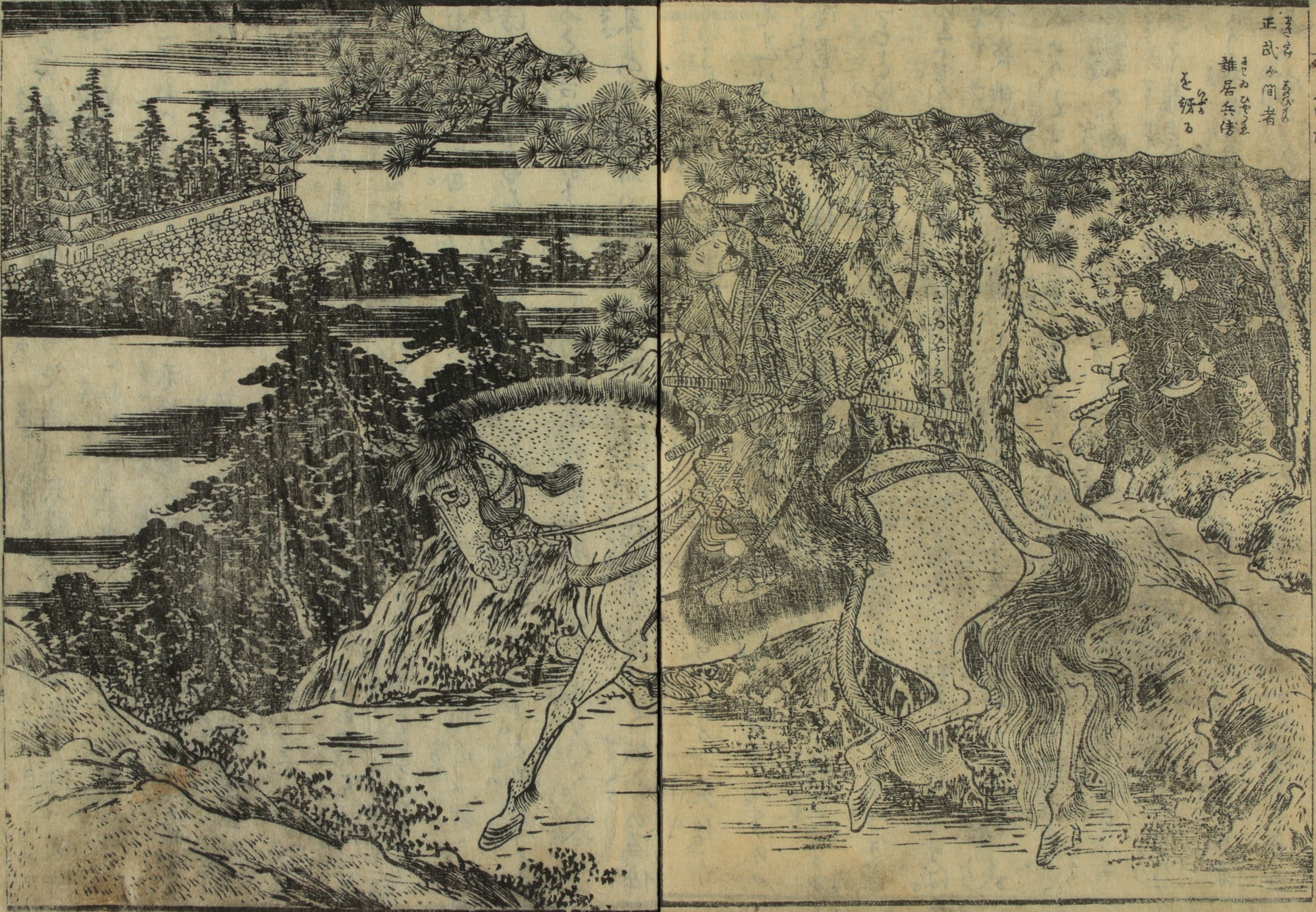
西の比及ふ城の濶際へ跨ぎて。前面を借と見え。門扇を固く鎖す。
 當下兵傍の声をきき。主城中に物さうせん。誰と出で。この城の遠く
 の兵士揃ふ。竹奴の使者さうや。と聞ゆ。兵傍さう。是の古市の氏
 清ぬらう。まじしとさうするのうとまじり。如は夜のとまれば。門を閉じ
 ろふ。さうさう。まじしとさうするのうとまじり。老ぶらう。黨一兩人。さうといひ且く
 右辺さう。物さの窓を押し開け。老兵二三人。さうさう。招か難居
 兵傍のさう。馬を近くさう。老兵ホは。對ひ左典。既自叙のさう。驚か
 かり。正之。二人。年未秘。正成。正和。相傳の兵書。搦井の一軸。さ
 足利殿。さうさう。さうさう。さうさう。惜む。さうさう。さうさう。さ
 すが。搦井の巻軸を。さうさう。邊と。氏清。聖の。入城。さう。さう。さ
 主命の。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ

そのさう。件の兵書の。正後。病臥。さう。さう。さう。さう。さう。さう。死後。一
 見。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 逐電。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 二。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 いか。せん。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 今夜。俄頃。さう。某を。遣して。そのさう。をいひ。さう。さう。既。兵書。紛失
 した。と。さう。さう。さう。と。本意。さう。さう。さう。さう。さう。さう。守り。ぬ。と
 いひ。果て。輿つ。を引。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 馳。龍泉の城。近。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 らう。物。さう。さう。馬。さう。負。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ
 まり。間。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さ

正武小僧者

雜居兵侍

を被る



一油をそり復くたす。といれたちたるがら。氏借ちり勢よとあり。彼城へ公龍こうりゆうこ
 へんが。それ由意らろよ任ませむ。物ものありんあいらのそなうて。豊浦とようらの子と棄夫しりぞ
 小捨こをり。悲ひ歎たんす。あつたるも。あつたるも。給たまふのを化あめせ。傷やの
 人ひとよ笑わらふ。志こころを励げし。憂うれふも。いふご憂うれふも。堪たぬ忠信ちゆうしん節せう毛もう
 の婦女子むすめよ。稀まれる。日本やまとを。ひるる。

松謀情史秋七草卷之一 終



